

# バス停からの 小さな旅



▲観音立像(右)から伸びる無量光を表した白線と、雲海を表した2種類の敷石

バス停名にもなっている正眼寺。臨済宗妙心寺派であるこの寺院の開山は、今からおおよそ690年前の元徳2(1330)年といわれ、修行道場としても知られています。本堂を右後方に左手に進むと車寄せがあり、「毒草窟」と名付けられた旧本堂の西側に、観音像を取り囲むように一つの庭園があります。

この庭園は、作庭家であり庭園史研究者である岡山県生まれの重森三玲(1896〜1975年)が昭和43(1968)年に設計した枯山水様式。奥の観音立像から四方へ伸びる白線は無量光、周囲と囲む敷石は雲海を表し、敷石の種類を変えることで紫雲と白雲を表しています。その雲海に点在する石組は庭園を立体的に見せながら、三十三観音を象徴しているとも考えられます。重森の作品としては、豪華な装飾を控え、ほかの庭園とは少し趣を変えた作品です。

固い石を雲や光などの柔らかなものに見立てたこの庭園は、寺の後ろにそびえる山全体とともに荘厳な雰囲気を出しています。

【参考文献】『日本庭園史大系33(1976年)』

文化の森 ☎ 28・1110



▲旧伊深村役場庁舎



今回乗車したバス

行き…さとやま線

左まわり2便

帰り…さとやま線

右まわり4便

09時24分 美濃太田駅北口

09時45分 正眼寺前

正眼寺の庭園を見学後  
バス停に戻り、西へ散策。国登録有形文化財  
の旧伊深村役場を見学。

11時51分 正眼寺前

12時13分 美濃太田駅北口